小・中学校再編にかかる地区意見交換会（佐伯会場）

１ 日時　　令和８年１０月２３日（金）　１９時～２０時２０分

２ 場所　　佐伯地域コミュニティセンター

３ 参加者　　２２人

４ 事務局　　都留教育長、神崎教育部長、御手洗教育総務課長、吉田学校教育課長
　　教育総務課職員　４人、学校教育課職員　２人

５ 次第

（１）開会

（２）教育長あいさつ

（３）教育部長あいさつ

（４）佐伯市立小・中学校再編（案）について
- 今回の説明会の趣旨とこれまでの経過
- 小・中学生の現状と今後の見通し
- 学校の再編に関するアンケート調査結果について
- 学校再編することのメリット・デメリット
- 適正な学校規模の考え方
- 小・中学校再編（案）
- 中学校再編後の学校規模
- 小学校再編後の学校規模
- 小・中学校再編までのスケジュール案

資料を基に上記の項目等について説明

（５）質疑応答

（６）意見交換

（７）閉会

6 質疑応答・意見交換の内容

（1）質疑応答

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	発言内容
参加者	小・中学校が統合された場合、登下校でスクールバスを利用することになると思いますが、運転手の人員確保は現時点でできているのでしょうか。見通しをお聞かせください。
事務局	運転手の確保につきましては、確約ができているわけではございません。現在、佐伯市では年間約１億円の予算を投じて多くのスクールバスやタクシー等を運行しております。今後は既存路線の延長やコミュニティバスを活用するなど、柔軟な運行体制を整えていく方針です。現段階で決定したものではございませんが、しっかりと検討を進めてまいります。
参加者	資料に示されている学校再編のメリット・デメリットについてですが、少人数校ならではのきめ細やかな指導という良さもある中で、「人数が集まることで社会性が育つ」「教育が充実する」といった記述は抽象的で具体的なイメージが湧きにくいと感じます。具体的にどのような場面で教育効果や充実が得られるのか、またデメリットへの配慮について、分かりやすい具体例があれば教えていただきたいです。
事務局	少人数校における手厚くきめ細やかな指導を否定するものではございません。一方で、これからの時代を生きる子どもたちにとって、多様な考えに触れ、切磋琢磨する環境は極めて重要です。小規模校では学年や人間関係が固定化しやすい側面がありますが、一定の集団規模があれば、グループ学習等を通じて様々な意見や価値観に触れ、自分の考えを深める機会が増えます。また、学校規模が大きくなることで教員数が増え、小学校高学年においても中学校のような「教科担任制」の導入が可能となります。これにより、専門性の高い授業の展開や複数の教員による多角的な見守り、中学校進学時の円滑な接続が期待できます。さらに、統合により他地域の子ども同士が交わることで、最初は戸惑いがあっても、事前の交流事業やコミュニティ・スクール（学校運営協議会）を通じた地域間交流（互いの地域を訪れる活動等）へ

	発展させることで、交友関係や地域活動の輪を大きく広げていくメリットへと変えていくことができると考えております。
参加者	集団規模による刺激がある一方で、大規模化に伴い生徒間のトラブルや悪影響を受けるリスクも懸念されます。また、学校再編の背景には人口減少がありますが、教育委員会として人口減少の根本原因をどのように捉えているのでしょうか。大分市などの都市部と比較して佐伯市の教育環境に物足りなさを感じて市外へ進学・流出してしまうケースもあると考えられます。魅力ある教育を中学校段階で先取りして提供できれば、定住や移住の促進にもつながるのではないでしょうか。
事務局	人口減少の背景には、若者の雇用の場や産業の衰退、子育て環境など様々な要因が複合的に絡み合っていると認識しております。学校教育におきましては、市内の教職員が日々熱心に工夫と指導を重ねておりますが、市外の先進的な実践や魅力ある教育手法を積極的に取り入れる視点は重要です。魅力ある教育の充実に向け、広く視野を持って取り組んでまいります。また、「ふるさと教育」の重要性も痛感しております。単に育った場所というだけでなく、地域や周囲の人々から温かく育てられた実感がふるさとへの愛着を育みます。将来一度市外へ出たとしても、「佐伯に戻って貢献したい」と思えるような、心豊かな子どもたちを地域全体で育てていくことが必要だと考えております。過去に旧町村単位で小中一貫校を開校し、特区を活用した英語教育の導入等で学力向上や一定の定住効果が見られた事例もございますが、教育分野単独での人口減少対策には限界もあるため、関係部局と総合的に取り組んでまいります。
参加者	遠方から統合校へ通学する場合、もし路線バス等を利用することになった際に自己負担（通学費）が発生するのではないかと心配です。子どもの都合で統合されるわけではないため、通学費は市が全額補助するなど無料化すべきです。学校数が減ることで教員配置や維持管理経費等がある程度削減されるのであれば、その浮いた財源を通学費支援に充てるべきではないでしょうか。
事務局	現在運行しているスクールバスにつきましてはすべて無償で運行しており、再編後においても通学支援については市としてしっかりと支援を行っていく方針です。なお、財政的な試算につきましては、学校数が減ることによる維持管理費等の削減がある一方で、新たなバス運行等の通学支援経費が増加し

	ます。仮に今回の再編案のすべてが実現したと仮定した場合、差し引きで 5 年間で約 2 億円程度の経費削減効果が見込まれるという大まかな試算を行っております。

（2）意見交換

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	**発言内容**
参加者	児童・生徒が放課後に図書館や児童館で過ごしたり活動範囲を広げたりできるよう、決められた時刻にバスで送迎するような配慮や仕組みを検討していただきたいです。
参加者	佐伯駅から海崎方面へ向かうトンネルでは、車道を通行すると車との距離が近く非常に危険です。一方、歩道を通る場合も幅が狭く、中央に排水溝の段差があるため、自転車の走行が極めて困難で転倒の危険があります。現場の危険性を肌で確認した上で通学路の安全対策を検討してください。
参加者	学校現場では教職員が一生懸命維持管理をしてくれていますが、プールや校舎の老朽化が進んでおり、子どもたちが快適で豊かな環境で学べているか不安を感じる場面もあります。少子化が進む中で、市外の先進的な教育を取り入れたり、多様な人々と関わり合える環境を整えたりすることは大切だと思います。統廃合には反対というわけではありませんが、再編によって子どもたちの未来が具体的にどのように豊かになるのか、保護者や子どもたちにも伝わる分かりやすい将来像を示していただきたいです。
参加者	アンケート結果を拝見すると、東雲小学校や八幡小学校など、再編される側の地域では「反対」の割合が高くなっています。学校が無くなる側の地域住民に対して、より丁寧で納得感のある説明や対話を重ねていただきたいです。
参加者	子育て世代の親として、一番心配なのは「安全・安心」です。説明資料では学習面や学校運営面のメリットが中心となっていますが、次回以降の資料では、通学の安全や子どもたちの安心に関わる取組や配慮事項についても、よ

	り手厚く記載していただきたいです。
参加者	学校が統合された後、閉校となった小学校や中学校の校舎・敷地がどのように活用されるのかが気になります。地域とのつながりや跡地利用の方針などがあれば、今後の資料等に記載して教えていただきたいです。
参加者	学校規模の大きな地域に比べ、東雲や八幡などの児童数が少ない地域はアンケートや意見集約の際にどうしても分母が小さくなり、声がかき消されてしまいがちです。児童数の多さだけで判断するのではなく、少数側の地域の思いや意見も平等に受け止めて計画に反映していただきたいです。